

第3回

「持続可能な地域のあり方懇話会」



令和7年12月23日

これまでの経過と今後のスケジュール

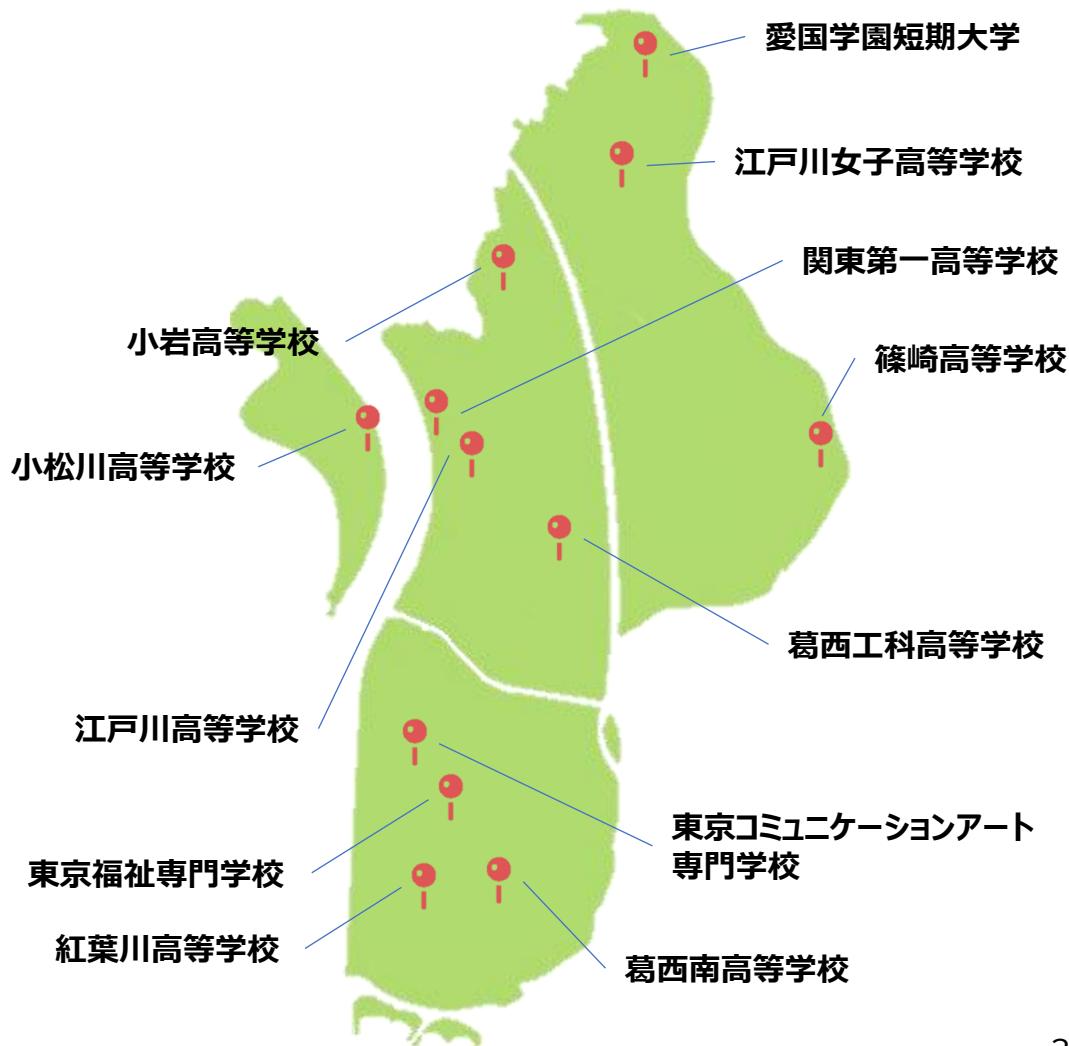
- 「持続可能な地域のあり方懇話会」は、これまで2回開催し、地域活動における課題やその解決策の方向性について、委員の皆さまのご意見をうかがってきました。
- あわせて、懇話会の中で出たご意見もふまえ、将来地域の担い手となる若い世代の声を聞く取り組みも、並行して実施してきました。
- 本日は「基本構想」の素案についてご意見をいただき、そのご意見を反映したうえで、年度内にパブリックコメントを実施し、構想完成を目指します。



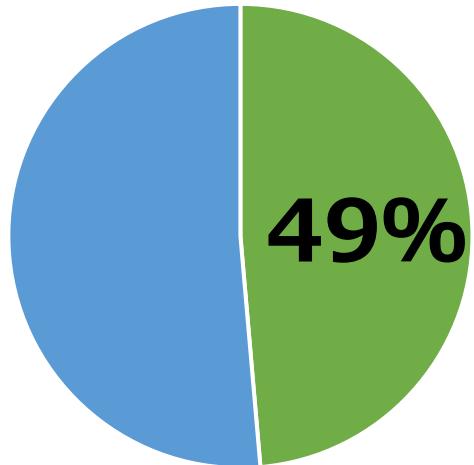
「若者の声を聴く」取り組みについて

将来、地域に関わる学生の皆さんに地域コミュニティの理想の姿・実現のためのアイデアを自由に出してもらいました。

ご協力いただいた学校（12校）
東京福祉専門学校
愛国学園短期大学
東京コミュニケーションアート専門学校
小松川高等学校
江戸川高等学校
小岩高等学校
葛西工科高等学校
葛西南高等学校
紅葉川高等学校
江戸川女子高等学校
篠崎高等学校
関東第一高等学校



地域活動への参加有無



- ある
- ない



参加したことがある主な活動

- ・おまつりなどのイベント
- ・防災訓練
- ・ゴミ拾いなど清掃活動
- ・ラジオ体操
- ・学校を通じた地域活動



いただいたご意見

地域活動を時給制にする

参加したら限定の
〇〇が貰える

スマホやPCゲームの大会



地域の行事に
インフルエンサーを呼ぶ

アニメとコラボして
イベント実施

オンラインで家でも
参加できるイベント

授業、業務に活動を
取り込む

地域活動に関する情報発
信サイトやSNSを作る

言語の壁をとりのぞく

持続可能な地域のあり方基本構想

(素案)

策定の背景・目的

江戸川区では、長年、地域活動を通じて「人と人とがささえあう力」が培われてきました。

近年は、社会経済情勢の変化や情報技術の革新などにより、区民生活の利便性は向上し、生活スタイルも多様化しています。しかし一方で、地域活動にかける時間や担い手自体の数は減少し、「人と人とがささえあう力」が薄れていってしまうことが懸念されます。

本区の人口が2100年にかけて半減すると推計されている中、「ともに生きるまち」の実現に向けて、持続可能な地域のあり方における方向性を示すことを目的として本構想を策定します。

目指すべき地域の姿と実現に向けたアプローチ方法

目指すべき地域の姿

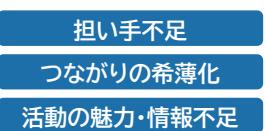
「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」に描かれているとおり、「区に関わるみんなが「自分たちのこと」として、ともにまちをつくりっている姿」を目指します。

現状の活動における課題

区民生活の利便性の向上



現状の活動における課題



実現に向けたアプローチ方法

実現するための取り組み

目指す
地域の姿

構想の位置付け

本構想は、「ともに生きるまちを目指す条例」と、その理念をもとに目指す区の姿を描いた長期構想「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」、そして、その実現に向けた「アクションプラン」にもとづくものとして位置付けます。

目指す地域の姿を実現するための取り組み



「4つの機能」

1 いつも立ち寄ることができる機能

徒歩10分圏内(半径約800m程度)を一つの「地域連携の場」の圏域として、地域に関わる皆さまが、気軽に集まれるようにします。

2 関わる皆さまの間で意見を出しあい、共有する機能

地域ごとに異なる課題や目指す姿について、地域に関わる皆さまで自由に意見を出しあい共有します。

3 課題解決できる人・団体を見つけ、結びつける機能

既存のつながりだけでは解決できない課題に対し、必要な人・団体を見つけ、つなぎ、巻き込む役割を果たします。

4 課題について話しあい、実行する機能

コーディネーターとともに、課題に優先順位をつけ、必要なメンバーで議論を進めます。必要に応じて、人・物・資金を確保する仕組みも求められます。



「地域連携の場」の拠点=(仮称)ミニ区役所

身近な場所に設置

専門性のある職員を配置

さまざまな行政サービスとの連携



現状の活動における課題を解決するための取り組み

地域に関わる皆さまからいただいたご意見をもとに、「地域連携の場」に関わるものも含め、地域活動における課題とその解決策の方向性を整理しました。

A 担い手不足の解決に向けて

(1) インセンティブの導入 中・長期

活動に対するインセンティブ導入の必要性や効果を研究。

(2) 民間企業等の地域活動への参加支援 短期

地域と企業のニーズをマッチングする仕組みの検討。

(3) 行政から依頼する活動の見直し 短期

区が依頼する活動の内容や必要性の精査。

B つながりの希薄化の解決に向けて

(1) 世代を超えた交流機会の創出 短期

顔見知りの関係を築ける、世代間の交流機会の創出。

(2) 時間や場所を選ばず参加できる仕組みづくり 中・長期

活動日程の見直しやデジタル技術の活用の検討。

(3) 外出が困難な方の支援 中・長期

自宅を訪問して、地域とのつながりづくりを支援する仕組みの構築。

C 活動の魅力・情報不足の解決に向けて

(1) 魅力向上の取り組み 中・長期

地域活動の多様化による若い世代の参加促進。

(2) SNSなどを活用した情報発信 短期

多くの方に情報を届けるための支援の仕組みを検討。

(3) 情報の多言語化 短期

言語の壁をなくす取り組みやその支援策の検討。

まとめ

本構想では、地域コミュニティや地域活動を持続可能なものにしていくために、歩いて行ける場所に「(仮称)ミニ区役所」を拠点とした「地域連携の場」を設けていくことをはじめ、数々の課題について取り組みの方向性をまとめました。

これらの方向性に沿って、引き続き、持続可能な地域のあり方について、地域に関わる皆さまとともに検討を続けてまいります。

策定の背景・目的

江戸川区では、長年、地域活動を通じて「人と人とのささえあう力」が培われてきました。

近年は、社会経済情勢の変化や情報技術の革新などにより、区民生活の利便性は向上し、生活スタイルも多様化しています。しかし一方で、地域活動にかける時間や担い手の数は減少し、「人と人とのささえあう力」が薄れていってしまうことが懸念されます。

本区の人口が2100年にかけて半減すると推計されている中、“ともに生きるまち”的実現に向けて、持続可能な地域のあり方における方向性を示すことを目的として本構想を策定します。

構想の位置付け

本構想は、「ともに生きるまちを目指す条例」と、その理念をもとに目指す区の姿を描いた長期構想「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」、そして、その実現に向けた「アクションプラン」にもとづくものとして位置付けます。

その他関連する計画

江戸川区公共施設再編・整備計画



文化・スポーツ基本構想



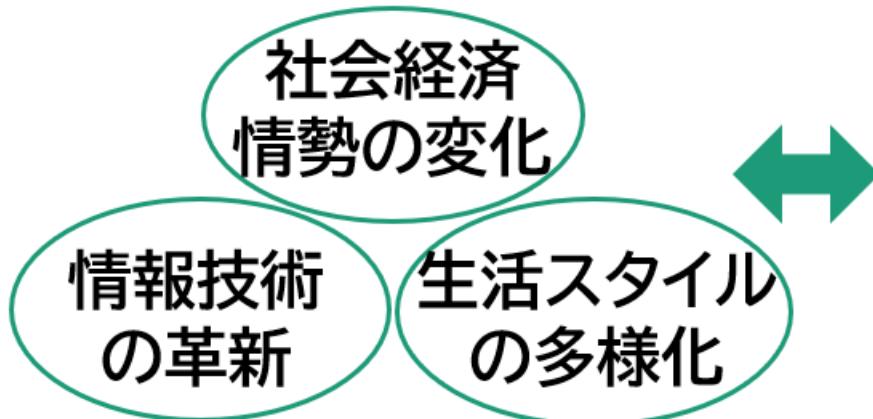
目指すべき地域の姿

「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」に描かれているとおり、「区に関わるみんなが「自分たちのこと」として、ともにまちをつくっている姿」を目指します。



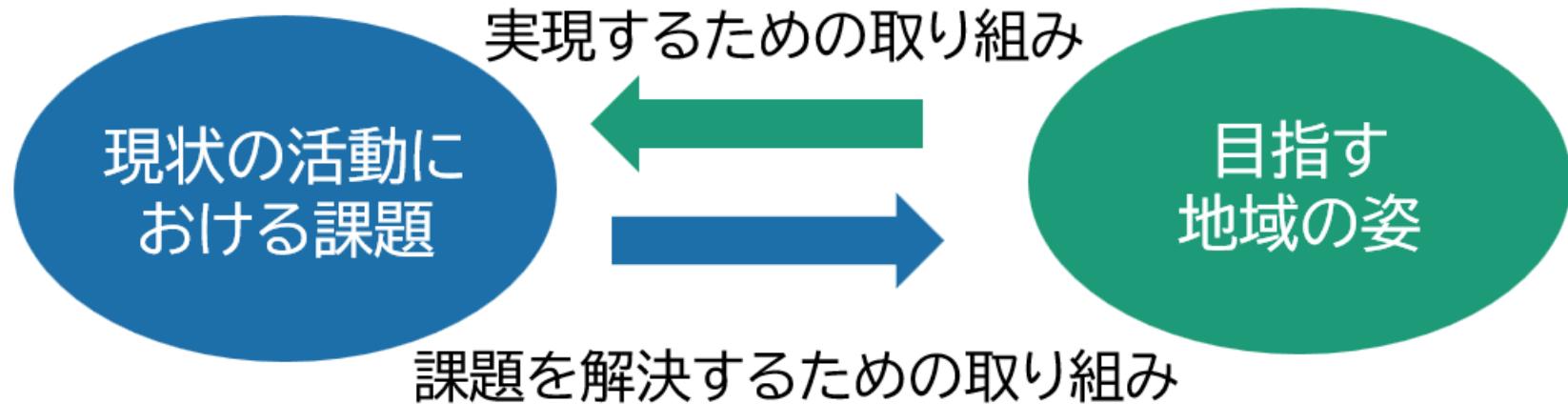
現状の活動における課題

区民生活の利便性の向上



現状の活動における課題

実現に向けたアプローチ方法



地域に関わる皆さまが協力しあえる仕組み



「4つの機能」

1 いつでも立ち寄ることができる機能

徒歩10分圏内(半径約800m程度)を一つの「地域連携の場」の圏域として、地域に関わる皆さまが、気軽に集まれるようにします。

2 関わる皆さまの間で意見を出しあい、共有する機能

地域ごとに異なる課題や目指す姿について、地域に関わる皆さままで自由に意見を出しあい共有します。

「4つの機能」

3 課題解決できる人・団体を見つけ、結びつける機能

既存のつながりだけでは解決できない課題に対し、必要な人・団体を見つけ、つなぎ、巻き込む役割を果たします。

4 課題について話しあい、実行する機能

コーディネーターとともに、課題に優先順位をつけ、必要なメンバーで議論を進めます。必要に応じて、人・物・資金を確保する仕組みも求められます。

「地域連携の場」の拠点=(仮称)ミニ区役所

身近な場所
に設置

専門性のある
職員を配置

さまざまな行政
サービスとの連携



地域に関わる皆さまからいただいたご意見をもとに、「地域連携の場」に関わるものも含め、地域活動における課題とその解決策の方向性を整理しました。

A 担い手不足の解決に向けて

(1) インセンティブの導入 中・長期

活動に対するインセンティブ導入の必要性や効果を研究。

(2) 民間企業等の地域活動への参加支援 短期

地域と企業のニーズをマッチングする仕組みの検討。

(3) 行政から依頼する活動の見直し 短期

区が依頼する活動の内容や必要性の精査。

B つながりの希薄化の解決に向けて

(1) 世代を超えた交流機会の創出 短期

顔見知りの関係を築ける、世代間の交流機会の創出。

(2) 時間や場所を選ばず参加できる仕組みづくり 中・長期

活動日程の見直しやデジタル技術の活用の検討。

(3) 外出が困難な方の支援 中・長期

自宅を訪問して、地域とのつながりづくりを支援する仕組みの構築。

C 活動の魅力・情報不足の解決に向けて

(1) 魅力向上の取り組み 中・長期

地域活動の多様化による若い世代の参加促進。

(2) SNSなどを活用した情報発信 短期

多くの方に情報を届けるための支援の仕組みを検討。

(3) 情報の多言語化 短期

言語の壁をなくす取り組みやその支援策の検討。

まとめ

本構想では、地域コミュニティや地域活動を持続可能なものにしていくために、歩いて行ける場所に「(仮称)ミニ区役所」を拠点とした「地域連携の場」を設けていくことをはじめ、数々の課題について取り組みの方向性をまとめました。

これらの方針に沿って、引き続き、持続可能な地域のあり方について、地域に関わる皆さんとともに検討を続けてまいります。